



2019年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2018年10月31日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
 コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長
 四半期報告書提出予定日 2018年11月9日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 岡本 光司
 (氏名) 長尾 拓昭
 TEL 075-841-9385

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	6,258	8.6	751	24.5	739	24.9	481	62.4
2018年3月期第2四半期	5,763	1.8	603	7.5	592	7.8	296	26.1

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 531百万円 (53.1%) 2018年3月期第2四半期 347百万円 (24.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	241.95	
2018年3月期第2四半期	148.95	

当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算出しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第2四半期	19,018	7,332	35.1	3,353.79
2018年3月期	19,472	6,845	32.0	3,131.76

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 6,667百万円 2018年3月期 6,226百万円

当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産を算出しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		0.00		20.00	20.00
2019年3月期		0.00			
2019年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	4.8	790	15.7	740	13.6	560	13.9	281.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期2Q	2,000,000 株	2018年3月期	2,000,000 株
期末自己株式数	2019年3月期2Q	11,808 株	2018年3月期	11,790 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期2Q	1,988,198 株	2018年3月期2Q	1,989,021 株

当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期中平均株式数(四半期累計)を算出しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(追加情報)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. (参考) 四半期財務諸表 (個別)	9
(1) (参考) 四半期貸借対照表 (個別)	9
(2) (参考) 四半期損益計算書 (個別)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、通商問題などの海外リスクや原油高の影響が懸念されたものの、堅調な企業収益と個人消費の持ち直しによって緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況のもと、当社グループでは、大阪府北部地震や台風21号などの減収要因があるなかで、運輸、不動産、レジャー・サービスの各事業にわたり、安定的な収益確保のための基盤づくりと積極的な営業活動による業績の向上に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は不動産賃貸収入の増加もあり6,258百万円（前年同期比494百万円、8.6%増）となり、営業利益は燃料費の増加はあるものの、その他の諸経費の執行の遅れによる営業費用の減少もあり751百万円（前年同期比147百万円、24.5%増）となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は739百万円（前年同期比147百万円、24.9%増）となり、特別利益および災害等に伴う特別損失ならびに法人税等を加減した親会社株主に帰属する四半期純利益は481百万円（前年同期比184百万円、62.4%増）となりました。

次に、セグメント別の状況をご報告いたします。

① 運輸業

鉄軌道事業におきまして、嵐山線では、インバウンドのお客様のご利用が引き続き堅調であったことに加え、2017年4月の運賃改定で家計負担を抑える運賃制度への見直しの結果、定期利用のお客様が増加したほか、沿線の魅力を発信する企画電車の運行や「沿線深耕」の取組みとして沿線周辺の寺院をめぐるイベントを実施したことなどにより好成績を収めることができました。また、鋼索線（叡山ケーブル・ロープウェイ）では、春の瑠璃光院夜間特別拝観と併せて実施した「八瀬もみじの小径」と「ケーブル八瀬駅・比叡駅」ライトアップや夏のナイター運行が好評を博すとともに、インバウンドのお客様の増加もあり増収となりました。

バス運送事業におきまして、京都バス(株)では、運転士の要員不足を解消するため、2018年3月に減便を伴うダイヤ改定を実施いたしました。一方で、2017年4月に開始した京都市交通局とのICカードによる共通定期券が増収に寄与し、さらに、社有土地の新規賃貸もあって増収となりました。京福バス(株)では、JR福井駅西口バスターミナルの供用を開始して以降、路線バスが増収傾向で推移していますが、深刻化する運転士の要員不足への対応と収支改善のための効率化を2018年4月と10月に実施しました。2018年4月は、路線の運行本数の見直しを行うとともに、一部路線をグループ等のタクシー会社に移管し、お客様の利便性を見据えて幹線のバス拠点から枝線の乗合タクシーに乗り継ぎ輸送形態を構築しました。さらに、2018年10月には、鉄道線拠点から乗合タクシーへ乗り継げる路線への見直しを実施しました。貸切バスでは、営業活動においてグループ受注窓口の一本化による効果が着実に進むなか、2018年9月29日から開催された「福井しあわせ元気国体・元気大会」の輸送にもグループ全体で精力的に取り組みました。

以上の結果、運輸業の営業収益は3,887百万円（前年同期比108百万円、2.9%増）となり、営業利益は287百万円（前年同期比54百万円、23.3%増）となりました。

② 不動産業

不動産賃貸事業におきまして、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、度重なる台風や豪雨、さらには猛暑などの異常気象により国内外のお客様のご利用が減少しましたが、嵐山駅ビル上層階の「ファーストキャビン京都嵐山」への賃貸を2018年3月に開始したことや、その他の賃貸施設の入居率の改善もあり増収となりました。また、嵐電沿線の地域ブランドの創出と沿線の居住人口の増加を目的とした「らんでんすもすもプロジェクト」では、子育て世代向け住宅2軒のリフォーム工事を完了し、お客様内覧会などの営業活動を開始しました。「BOAT RACE（ボートレース） 三国」では、2018年4月から9月まで、他のボートレース場との差別化を図るため、競合の少ない朝から開催する「モーニングレース」に新たに取組みました。「モーニングレース」の開催に伴い、スマートフォンアプリ等でのレース情報の配信を充実させたこと等により電話投票の売上が大幅に増え、賃貸収入は増収となりました。なお、「BOAT RACE（ボートレース） 三国」では、施設の安全強化を図るため、耐震補強工事を継続して実施しており、今後も引き続き取り組んでまいります。

以上の結果、不動産業の営業収益は1,569百万円（前年同期比284百万円、22.2%増）となり、営業利益は365百万円（前年同期比68百万円、23.2%増）となりました。

③ レジャー・サービス業

飲食、物販業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」で夏季恒例の「RANDEN EKI-BEER 2018」で台湾フェアなどのイベントも実施するなどご利用の機会を高めましたが、猛暑の影響によりお客様は前年に比べ減少しました。ホテル業では、「三国観光ホテル」で台湾やタイからのインバウンドのお客様を積極的に誘致したほか、学生の団体合宿の新規獲得などにより宿泊のお客様が増加しました。また、2018年3月から営業を開始した

「ホテル京福 福井駅前」では、インターネット予約を充実させるとともに、京阪グループ内のホテルと連携を図るなど営業を強化しました。水族館業では、お子様向けの磯遊びや学校の校外学習を体験する施設として「マリンハウス」を2018年4月にオープンさせるなど館内施設の充実を図るとともに、今春に生まれた「コツメカワウソ」とのふれあいなど、ご来場のお客様の増加に向けた取組みを実施しました。

以上の結果、レジャー・サービス業は猛暑等の影響がありましたが、営業収益は1,044百万円（前年同期比139百万円、15.4%増）となり、営業利益は96百万円（前年同期比24百万円、34.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産は、受取手形及び売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ454百万円減少し、19,018百万円となりました。負債は、未払金の支払などにより、前連結会計年度末に比べ941百万円減少し、11,685百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ487百万円増加し、7,332百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績等を踏まえて、2018年5月9日に発表した計画から変更し、営業収益12,000百万円（前期比4.8%増）、営業利益790百万円（前期比15.7%増）、経常利益740百万円（13.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益560百万円（13.9%増）といたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,233	1,103
受取手形及び売掛金	1,321	1,077
販売土地及び建物	86	74
商品及び製品	23	25
原材料及び貯蔵品	46	45
前払費用	39	44
その他	373	505
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	3,120	2,873
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,315	9,091
機械装置及び運搬具(純額)	1,482	1,320
土地	3,594	3,636
リース資産(純額)	703	713
建設仮勘定	19	190
その他(純額)	349	307
有形固定資産合計	15,465	15,259
無形固定資産	193	178
投資その他の資産		
投資有価証券	317	316
繰延税金資産	82	114
その他	301	284
貸倒引当金	△9	△9
投資その他の資産合計	691	706
固定資産合計	16,350	16,143
繰延資産		
社債発行費	1	1
繰延資産合計	1	1
資産合計	19,472	19,018

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	52	60
短期借入金	3,656	3,455
1年内償還予定の社債	45	45
リース債務	156	150
未払金	972	459
未払法人税等	110	322
未払消費税等	96	144
賞与引当金	223	236
その他	540	454
流動負債合計	5,855	5,329
固定負債		
社債	65	42
長期借入金	4,446	4,101
リース債務	603	612
長期未払金	416	376
繰延税金負債	635	621
役員退職慰労引当金	57	51
退職給付に係る負債	243	245
その他	302	305
固定負債合計	6,772	6,356
負債合計	12,627	11,685
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	290	290
利益剰余金	4,852	5,293
自己株式	△19	△19
株主資本合計	6,123	6,564
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	103	103
その他の包括利益累計額合計	103	103
非支配株主持分	619	664
純資産合計	6,845	7,332
負債純資産合計	19,472	19,018

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業収益	5,763	6,258
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	5,107	5,457
販売費及び一般管理費	53	49
営業費合計	5,160	5,506
営業利益	603	751
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	5
助成金収入	1	6
雑収入	20	13
営業外収益合計	27	26
営業外費用		
支払利息	25	25
社債発行費償却	0	0
貸倒引当金繰入額	—	10
雑支出	12	1
営業外費用合計	38	37
経常利益	592	739
特別利益		
固定資産売却益	12	89
受取保険金	—	29
移転補償金	26	—
補助金収入	7	—
特別利益合計	46	118
特別損失		
災害による損失	—	38
固定資産除却損	18	25
損害賠償引当金繰入額	152	—
固定資産売却損	0	—
特別損失合計	170	63
税金等調整前四半期純利益	467	794
法人税、住民税及び事業税	219	310
法人税等調整額	△69	△46
法人税等合計	150	263
四半期純利益	316	530
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	49
親会社株主に帰属する四半期純利益	296	481

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	316	530
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	30	0
その他の包括利益合計	30	0
四半期包括利益	347	531
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	326	481
非支配株主に係る四半期包括利益	20	50

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年9月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	3,768	1,198	796	5,763	—	5,763
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	10	86	108	205	△205	—
計	3,778	1,284	905	5,969	△205	5,763
セグメント利益	233	296	72	602	1	603

(注) 1 セグメント利益の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	3,876	1,475	906	6,258	—	6,258
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	10	94	138	243	△243	—
計	3,887	1,569	1,044	6,502	△243	6,258
セグメント利益	287	365	96	750	0	751

(注) 1 セグメント利益の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. (参考) 四半期財務諸表 (個別)

(1) (参考) 四半期貸借対照表 (個別)

(単位: 百万円)

科目	前事業年度末 (2018年3月31日)	当第2四半期会計期間末 (2018年9月30日)
(資産の部)		
流動資産	784	529
現金及び預金	467	399
未収運賃	53	45
未収金	171	9
未収収益	53	36
販売土地及び建物	0	0
貯蔵品	17	17
前払費用	7	9
その他の流動資産	13	12
固定資産	12,716	12,466
鉄軌道事業固定資産	3,109	2,997
兼業固定資産	8,275	8,197
各事業関連固定資産	77	76
建設仮勘定	19	7
投資その他の資産	1,233	1,186
投資有価証券	236	226
関係会社株式	852	826
出資金	1	1
長期前払費用	4	3
その他	144	134
貸倒引当金	△5	△5
繰延資産	1	1
社債発行費	1	1
資産合計	13,502	12,997

(単位：百万円)

科目	前事業年度末 (2018年3月31日)	当第2四半期会計期間末 (2018年9月30日)
(負債の部)		
流動負債	4,318	3,889
短期借入金	1,750	1,750
関係会社短期借入金	280	280
1年内返済予定の長期借入金	1,349	1,346
1年内償還社債	45	45
リース債務	0	—
未払金	478	53
未払費用	59	32
未払法人税等	61	133
未払消費税等	29	49
預り連絡運賃	1	1
預り金	84	56
前受運賃	22	27
前受収益	48	63
賞与引当金	40	44
その他の流動負債	66	4
固定負債	5,234	4,944
社債	65	42
長期借入金	4,003	3,761
長期未払金	111	99
繰延税金負債	879	862
資産除去債務	5	5
長期預り金	38	36
長期預り保証金	130	137
負債合計	9,553	8,834
(純資産の部)		
株主資本	3,868	4,088
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	270	270
資本準備金	270	270
利益剰余金	2,616	2,836
利益準備金	46	46
その他利益剰余金	2,570	2,790
固定資産圧縮積立金	1,524	1,492
繰越利益剰余金	1,045	1,298
自己株式	△19	△19
評価・換算差額等	81	75
その他有価証券評価差額金	81	75
純資産合計	3,949	4,163
負債純資産合計	13,502	12,997

(2) (参考) 四半期損益計算書 (個別)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
鉄軌道事業		
営業収益	744	758
営業費	695	710
営業利益	48	47
兼業		
営業収益	622	648
営業費	392	386
営業利益	229	262
全事業		
営業収益	1,366	1,407
営業費	1,088	1,096
営業利益	277	310
営業外収益	45	34
営業外費用	29	35
経常利益	294	308
特別利益	4	98
特別損失	27	38
税引前四半期純利益	271	368
法人税、住民税及び事業税	85	122
法人税等調整額	△7	△14
四半期純利益	193	260